

## 【令和2年度 事業報告 重点項目】

### 1. 養育・自立支援

- ①養育ハンドブックを各グループに配布し、新任職員の育成などにも活用した。  
・各グループで随時修正し、修正箇所を持ち寄って年度末に改良をおこなった。
- ②各グループで子どもの意向を十分に聞き、検討した上で、管理職と各専門職を交えての自立支援計画書策定会議に望むことができた。
- ③携帯電話利用の共通ルールなどは作成できたが、コロナウイルスによる会議数の減少もあり、生活全般についての共通ルールの見直しまでは及ばなかった。
- ④コロナウイルスの影響もあり、委員会活動での議論や会議等で共有する場も限られ、ヒヤリハットの全体周知も効果的に行うことが難しかった。

### 2. 人材確保

- ①年度計画を作成し、スケジュールに沿った取り組みを行うことができた。費用をかけずとも100名程度のエントリー、及びエントリー希望（採用活動終了によりお断り）があり、25名程の確保に成功した。
- ②3名増員のスタートとなったが、年度はじめに1名が退職したことにより、年度を通しては2名分の増員となった。予定よりも多くの人材が江戸川つむぎの家に異動してスタートが切れる予定となった。
- ③希望の家と江戸川つむぎの家の内定者、合同内定者研修を行い、今後も連携して人材育成をしていくベースをつくることができた。
- ④TwitterとFacebook、Instagramを採用活動でも運用したが、比してTwitterの反響が大きかった。

### 3. 人材育成

- ①人材育成に多くの時間を割いた1年となった。現場でのOJTが育成の基本とはなるが、どこに所属しても同じように成長の機会があるよう、組織全体で人材を育成していく。
- ②コロナウイルスの影響もあったが、年間8回程のリーダー研修を実施することができた。内容については反省点もあるので次年度に生かしたい。
- ③グループ会議ではロールプレイやグループワークなどを多用し、より実践にいかせる形で支援力の向上を図った。
- ④おたすけ隊（新任職員へのメンター制度）をスタートし、ある程度の基盤ができた。新任職員からの評価も高かった。



#### 4. 運営管理（事業継続・その他）

##### <事業継続>

- ① コロナウイルス流行のため、インフルエンザ等感染症対応 BCP の早期完成が求められた。防災担当だけでなく、管理職、看護師等も関与しながら完成することができた。洪水対応 BCP については作成途中であるため、次年度も引き続き作業に取り掛かる。
- ② 地震対応 BCP は完成しているが、委員会活動の日程が制限されたこともあり、見直すところまではできなかった。

##### <その他の運営管理>

- ① 全員の勤務状況を一目で把握できる勤務表を作成し、全体の勤怠管理に努めることができた。
- ② LINE の活用を通して、早急な情報共有等が行いやすくなった。グループ間でサポートし合えるような意識の醸成まではできなかったもので、継続検討予定。
- ③ ショートステイ、ホームスタート、地域音楽遊び（音楽療法）のそれぞれの担当者と、管理職とのミーティングを定期的に持ち、意識の共有を図った。
- ④ フォスタリング機関を担う準備として、外部講師を迎えての研修を施設内で実施した。
- ⑤ 全児童のアレルギー検査の実施に向けて、今年度は4名の児童が検査を実施した。
- ⑥ コロナウイルスの影響を受け、多くの備品（体温計やアルコール消毒、マスク、消毒液、等）を急遽購入し、対策に努めた。

##### <修繕>

- ① 予定通り完了している。

